



# 子どもの居場所

～子どもが輝く次世代の学び舎～

## 事業計画書

夢を咲かせる応援団

GIFT

特定非営利活動法人

## I. はじめに

1. 提案者プロフィール
2. 運営委員会沿革
3. 運営委員会構成(2016. 12月末現在)
4. 提案の背景
5. 事業の概要(含む事業コンセプト)

## II. 事業計画概要

1. 事業モデル
2. 事業理念を事業ビジョン
3. 対象者と対象者のニーズ
4. 事業対象エリア
5. 事業拠点となる施設
6. ビジョンストーリー(感動の場面)
7. ペルソナと利用までのプロセス
8. 事業対象者
9. 事業展開プラン
10. 業務プロセス

## III. 活かせる強み

## IV. 事業化方法とステップ

## V. 事業収支の前提条件

## VI. 事業活動収支計画

1. 第1期事業計画計算書(1か所運営の場合)
2. 第1期事業計画計算書(3か所運営の場合)

## VII. 事業責任者と経営体制

## VIII. 本事業に伴うリスクと対応

## IX. 今後の検討課題

## X. 関係機関連携先



## ◆眞鍋大輔(まなべだいすけ) S50.2.14(41歳)

- ・高知県立高知南高等学校卒業
- ・卒業後 建築会社にて営業、積算、設計、現場監督
- ・28歳 建築会社を退職。その後様々な職業を経験
- ・33歳 任意団体 NPO GIFTを設立
- ・35歳 NPOを法人化しNPO法人GIFT 副理事長就任
- ・40歳 高法寺福住職 NPO法人GIFT 事務局長(副理事長)

世界中の子どもが行きたいと願う学校づくりを始める。

現在は、高知に子どもの居場所づくりを進める

<GIFT活動>学校でのキャリア教育授業。高知ドリプラなど

30歳まで夢や目標と呼べるものを持ったことはなく、友達と呼べる人もいなかったが、31歳の時の出会いをきっかけに自分を変えようともがき始める。

32歳の出来事で「命の期限」に気づき、33歳の時に「あと5年の命」と覚悟を決め、「この世のすべての人が自分の可能性を信じ、夢にチャレンジできる社会」をつくるための任意団体GIFTを設立。リアカーで四国一周後、NPOを法人化し、四万十川の源流域で子どもの自然体験施設を運営し始めるが2年で挫折。

その後、実業家に師事し目的を実現するための行動学を2年間学ぶ。現在は高法寺の福住職として活動。

# I - 2. 実行委員会沿革

H27年 12月 子どもの居場所づくり案発表

H28年 1月 第1回子どもの居場所づくり勉強会

2月 第2回子どもの居場所づくり勉強会

3月 第3回子どもの居場所づくり勉強会

4月 第4回子どもの居場所づくり勉強会

5月 第5回子どもの居場所づくり勉強会

6月 子どもの居場所づくり実行委員会発足  
第6回子どもの居場所づくり勉強会

7月 第7回子どもの居場所づくり勉強会

8月 第8回子どもの居場所づくり勉強会  
土佐みずきライオンズクラブ プレゼン

9月 第9回子どもの居場所づくり勉強会

10月 こうち子どもの居場所『えいや家』設立説明会 & 講演会 開催

11月 高知市神田の有料老人ホームの1Fにて  
子どもの居場所『えいや家』をオープン



第3回勉強会(たかじょう庁舎)



第6回勉強会(高法寺)



10月設立説明会 & 講演会(ふくし交流プラザ)



11月 子どもの居場所オープン

# I - 3. 運営委員会構成

- 委員長 北井達朗(中学校教諭)
- 副委員長 田埜恵美(スーパー主婦)
- 副委員長 明坂知佳(看護師)
- 事務局長 眞鍋大輔(NPO法人GIFT)
- 組織母体 特定非営利活動法人GIFT



第一回勉強会(たかじょう庁舎)

## ■ 経営

- ・人事、組織づくり
- ・運営管理
- ・会計、監査
- ・資金調達
- ・企画・広報
- ・支援者集め(営業)
- ・行政、地域との対応

## ■ 運営

- ・スタッフ連携システムの構築
- ・スタッフ養成講座の企画、運営
- ・場所(施設)の管理
- ・ルールづくり
  - ・子どもへの対応
  - ・保護者への対応
  - ・地域への対応
  - ・安全面への対応

## 運営メンバー

無給スタッフ	5人
ボランティア	8人
大学生アルバイト	5人

勉強会参加者 延べ 200人

## I-4. 提案の背景

現在の日本では、子どもの経済的格差や教育格差が大きな社会問題となっています。その問題を根本的に解決するためには、学校、保護者、地域が連携する『新しい学びの仕組みづくり』が喫緊の課題となっています。当事業では、NPOが中心となって、子どもを取り巻く環境に関係するすべての機関の連携パイプとなり、子どもを中心とした地域の育ち場をつくり、広げていきます。

経済的に困っている子どもたちに対する支援には、人とのつながりや相談できない環境の中で孤立化する関係性への支援や学習支援、食事の支援があり、「子どもの孤独を防ぐ」とともに、「安心できる居場所」が子どもたちの地域に必要です。多世代の人とのふれあいや勉強を教えてもらったりする中で、『ナナメの関係性』が構築されて悩みなどの相談も気軽にできたりするようになります。そんな安心できる居場所の役割は、家や学校に居場所がない子どもたちにとって、とても重要で必要なものです。

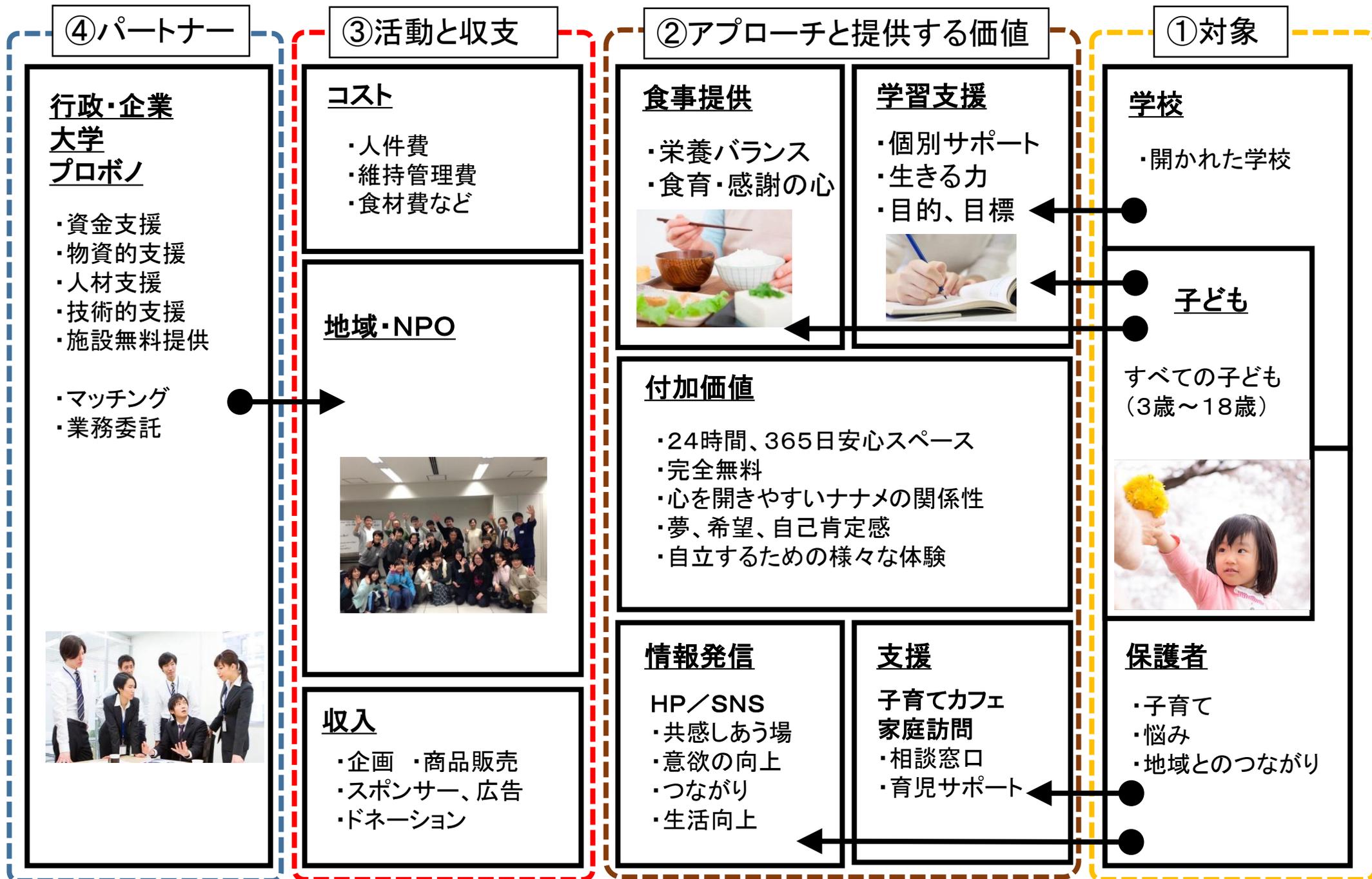
そこで当事業は、「いつでも、いつまでも変わらずにあり続け、子どもたちを見守り育てる！」そんな確固たる意志に基づいた仕組みを、地域にいる思いある人たちと力を合わせて、多様な学びの中で、多様な生き方を実行する本当の意味での『子どもの立場にたった支援』を行いたいと考えます。



子どもを中心とした地域の人たちで創る  
次世代の多様な学びの場で  
すべて子どもたちが「自らの可能性」を信じ  
「自分の枠を超えていくチカラ」を身につけ  
そして、世界に影響を与える「自立した大人」に成長できる  
新しい仕組みを高知から日本へ広げる



## Ⅱ-1. 事業モデル



### ■ 事業理念

多様な個性を持つ子どもが自立した人に育つように  
チャレンジに満ちた多様な学びの場、育ちの場を  
すべての子どもに無償で提供します

### ■ 事業ビジョン

関わる人が豊かになる自立型の地域コミュニティーを構築し、  
日本の格差社会の問題を根本的に解決すると同時に世界のリーダー  
となるような人材を地域で育む持続可能な社会をつくっていきます。



## Ⅱ－3. 対象者と対象者のニーズ

対象者	対象者1	対象者2	対象者3
プロフィール	何らかの理由で通学できていない子ども	悩みや不安を抱えている子ども	自分の子育てに悩んでいる保護者
対象者数(全国)	12万人	24万件 (チャイルドライン相談件数)	—
対象者数(高知県)	1000人以上	—	—
ニーズ	多様な学びの場	相談できる人間関係	悩みを共有できる関係



## Ⅱ-4. 事業対象エリア

■第一期から第3期までの事業範囲です。予定エリアは状況により変更になる場合もあります。

	事業範囲	新設予定エリア
現在	高知市内 一か所	神田地区 (H28年11月より運営開始)
第1期予定エリア 平成29年4月 ～30年3月	高知市内 三か所	神田・鴨部 一宮 朝倉
第2期 平成30年4月 ～31年3月	高知市内 七か所	調査・検討
第3期 平成30年4月 ～33年3月	高知市内 十か所	調査・検討

### ■ 高知市内の予定エリアにある一戸建て空き家を利用します。

#### <理由>

1. 地域に密着したコミュニティーの中心になるため
2. 子どもが自分の意志で歩いて来れる場所になければならないため

#### <条件>

1. ある程度の広さ
2. 流し調理場周りが広い
3. 自由に間取りや改装ができる
4. 家賃が安い
5. 近隣からの理解を得られる
6. 長期的に借りられる
7. 耐震性に著しい問題がない  
(高知県の空き家・耐震助成金などを利用)



## Ⅱ-6. ビジョンストーリー（感動の場面）

小学生4年生 なお(9歳) 父 隆(35)、母 かおり(33)、姉 さくら(11)の四人暮らし

共働きの両親の元で暮らしているなおは一年前より学校へは行かなくなっていた。学校の授業についていけなくなり、じっと机に座っていることが苦痛に感じる日々が続いたからだ。父の隆と母のかおりもなおの事を心配して、学校の先生と相談したりネットでいろいろ調べて手を尽くしていた。

ある晩の食卓で、姉のさくらが友達と一緒にやってきたという場所の話が話題にした。

「今日ね、あすかちゃんと一緒に面白い場所に行ってたんだあ」

「そうなの？ 帰りが遅いと思ったら・・・一体どこに寄ってたのよ！」母のかおりが少し怪訝そうな顔をして聞いた。

「なんて言ってたかな・・・こどもの・・・えーっと、わすれちゃった(笑)でもね！そこには大学生がいて、私の勉強のわからなかったとをしっかりと教えてくれたんだ！私だけでなくあすかちゃんも教えてもらったんだよ！あすかちゃんも、すごくわかりやすかったって言ってた！なおもそこに行けばいいのに」さくらはそういうとプチトマトを一つ口の中に放り込んだ。

翌日、かおりはなおを連れて子どもの居場所を訪れた。

「こんにちは！初めましてですね！」ドアを開けると中から明るい声とともに大学生のゆいが出てきた。

「私はゆいって言います。子どもの居場所のスタッフリーダーやっています♪ようこそ～、どうぞ中へお入りください」

かおりとなおは、ゆいに促されて中へ入った。

## Ⅱ-6. ビジョンストーリー その1(感動の場面)

小学生4年生 なお(9歳) 父 隆(35)、母 かおり(33)、姉 さくら(11)の四人暮らし

中へ入ると、小学生の男の子二人と中学生らしい男の子がタブレットを囲んで楽しそうに話していた。(何をしてるんだらう?)かおりがそう思っていると、後ろからついてきたゆいが、「アプリを使って勉強しているんです！eラーニングっていうんですが、今は世界中のトップレベルの授業も無料で受けることができるんです。もちろん、自分のレベルに合わせて基礎から学び直せるんですよ！」

「学校に行かなくても勉強できるんですか？」かおりがビックリした声で聞いた。

「そうなんですよ！自分の学びたいことを自分の好きな時に好きなだけ学ぶことができるんですよ。もしわからないことがあれば私たちもその子に合わせたサポートをさせていただきますから♪」

かおりがなおの方を見ると、なおはタブレットに興味を持っているようだ。

「なおくん、ちょっとやってみる？」ゆいが促すとなおは、恥ずかしそうにちょこっとうなずいた。

あれから3月、なおは一人で子どもの居場所に出かけるようになり、友達もできた。少しずついろいろなことに興味も沸いてきて、自分から食堂でご飯を作ってくれるスタッフのお手伝いをしたり、近所のおいしいさんの畑で野菜の収穫などを手伝い始めた。

「ただいまー！ねえねえ、今日山下のおじいさんのとこのナスとピーマンの収穫のお手伝いをしてきたんだっ！」

野菜がたくさん入った袋を持ち、目を輝かせてながら今日の出来事を一生懸命に話すなおの姿に、母のかおりも笑顔で応えた。

## Ⅱ-7. ペルソナと利用までのプロセス

### ペルソナ設定

年齢	学年	性別	家族構成	移動手段	移動時間
11歳	小学5年生	男子	お母さん 兄弟1人	徒歩	15分

### 利用までのプロセス

<プロセス>	<状態>	<目標>	<具体例>
注目 (Attention)	知らない	認知度向上	学校の友達が「こどもの居場所」というところへ行ったという話をしているのを聞いた
興味 (Interest)	知ってはいるが興味はない	評価の向上	他の子どもからも、勉強を面白く教えてくれて、美味しいご飯も食べれた事を聞いた
意欲 (Desire)	興味はあるが行きたいと思っていない	ニーズの喚起	学校の掲示板で、「こどもの居場所」のチラシを見る。案外近くにあることを知る
動機 (Motive)	行きたいと思うが動機がない	動機の喚起・提供	そのチラシで今度の日曜日にイベントがあることを知る。(母親も地域の量販店でチラシを見る)
行動 (Action)	動機はあるが行く機会がない	機会の提供	お母さんに話すと、一緒に行ってもいいと言われた。

## Ⅱ-8. 事業対象者

### 【第1期】

小・中学生(6歳～15歳)

### 【第2期】

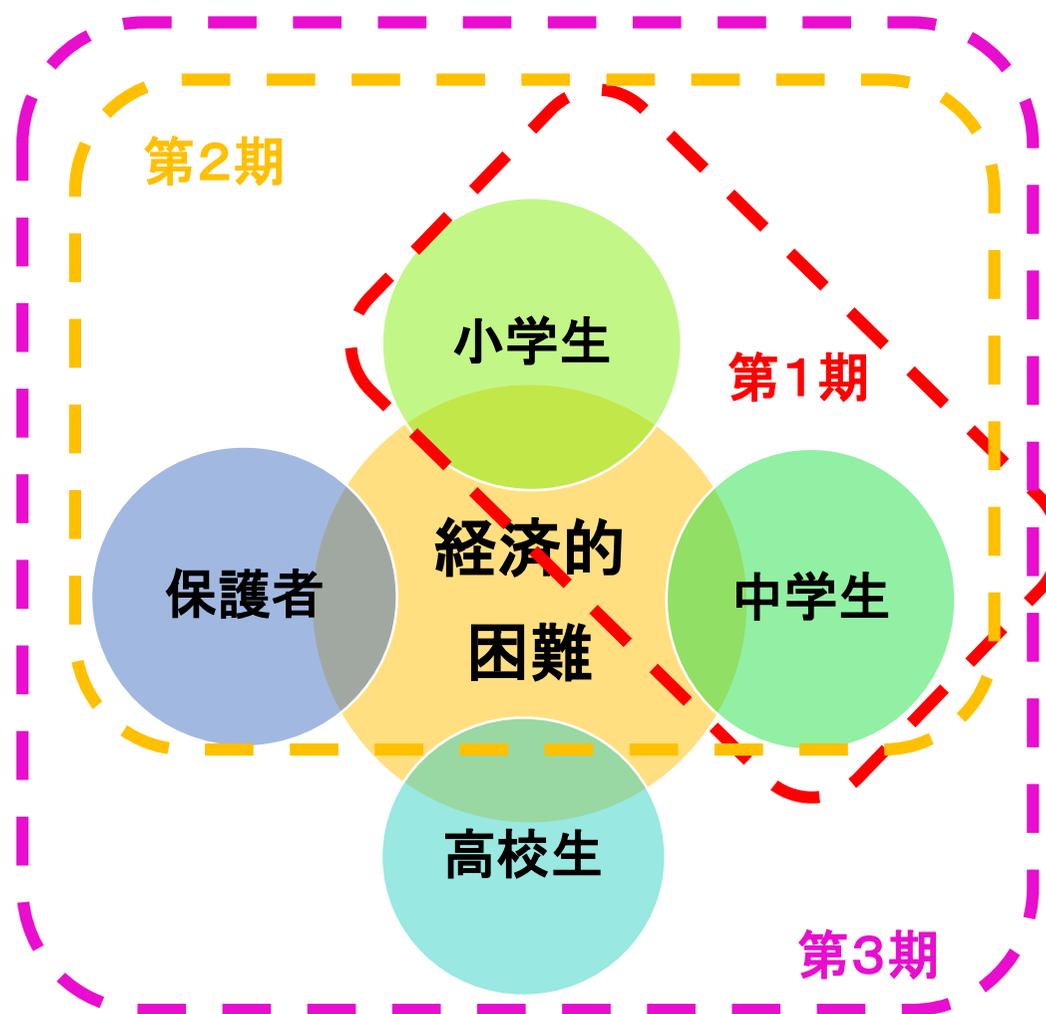
第1期+保護者

### 【第3期】

第2期+16歳～18歳

### 【第4期】

3歳からも対応予定



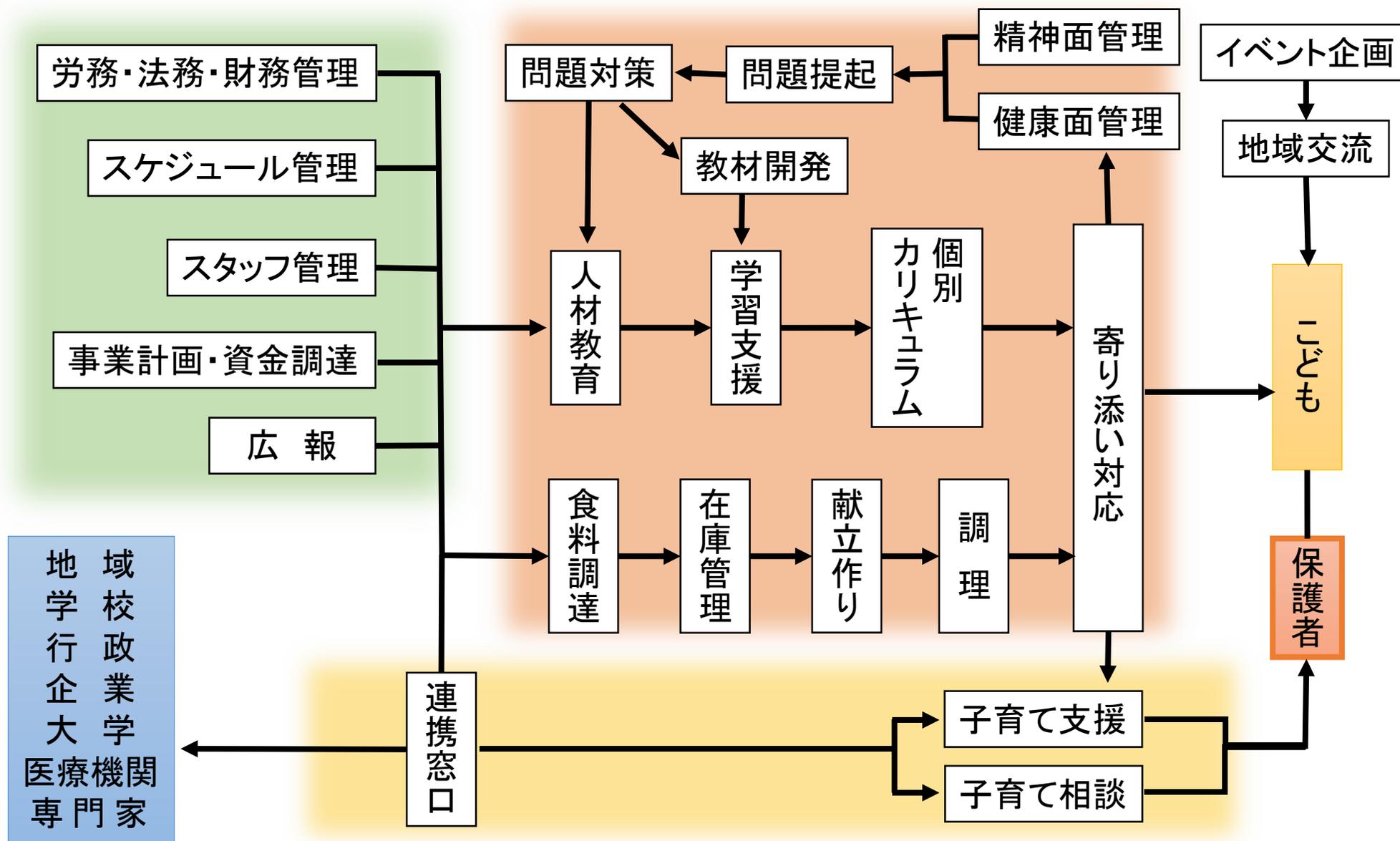
## Ⅱ-9. 事業展開プラン

■現在、想定している提供する価値、対価、場所、利用者募集は以下のとおりです。

提供する価値	支払う対価
安心できる居場所 多様な学びの機会 個別の学習支援 栄養バランスの良い食事 相談・カウンセリング	無償
提供する場所	利用者募集方法
子どもの居場所  後には※既存の学校 ※地域で創る学び舎	リーフレット／ロコミ 新聞・マスコミ イベント・地域での関わり HP・SNS 関係機関との連携・個別訪問

## Ⅱ-10. 業務プロセス

■業務プロセスは、大きく①来てくれた子どもに寄り添う運営プロセスと、②計画、管理、資金調達、広報などの経営プロセス、③専門機関連携、子育て支援(訪問も含む)などの対応プロセスからなっています



## 1. 市民の想いと力

子どもの未来を思い「何かできること」で役に立ちたいと願う人が集まる所には、「愛」と「思いやり」と「尽きることのない情熱」が宿る

## 2. 理念に基づいた個々の力

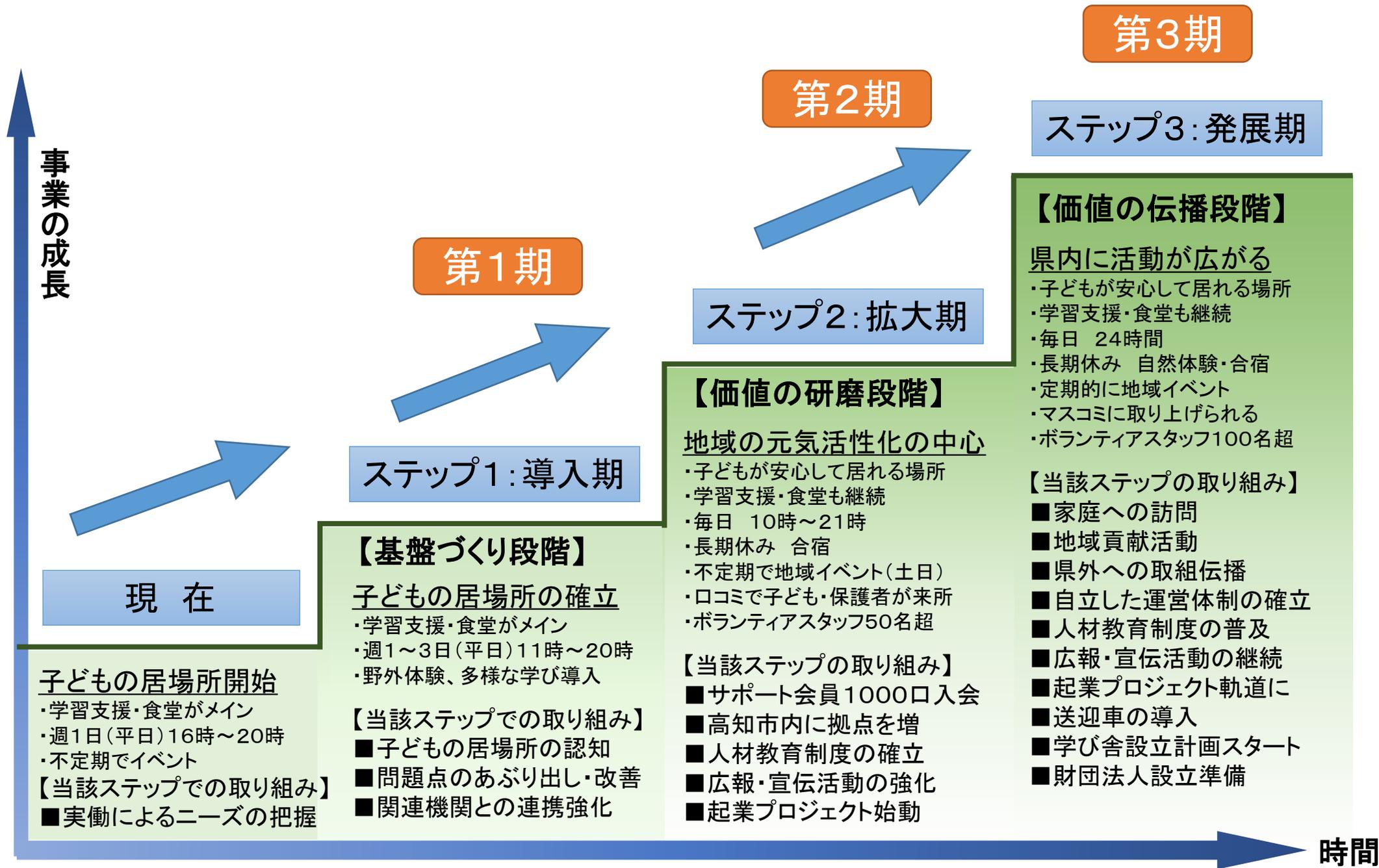
それぞれの役割と育成プログラムにより、個々の力が組み合わせさり発揮されることで、新しい価値観と仕組みを創造できる

## 3. 活動の広がり

市民のつながりを構築していくことにより、口コミや体感による活動の拡散ができる



# IV. 事業化方法とステップ



## V. 第1期事業収支の前提条件

### ■ 収益関係

- |             |    |            |
|-------------|----|------------|
| 1. サポート会員   | 1口 | 500円 / 月   |
| 2. 企業サポート会員 | 1口 | 1,000円 / 月 |

### ■ 施設運営関係

- |          |             |                         |
|----------|-------------|-------------------------|
| 1. 施設賃料  | 50,000円 / 月 |                         |
| 2. 駐車場費  | 10,000円 / 月 | (5,000円 × 2台)           |
| 3. 水道光熱費 | 12,000円 / 月 |                         |
| 4. 通信費   | 5,500円 / 月  |                         |
| 5. 食材費   | 200円 / 食    | ※食材の無償提供があった場合はここから差し引く |

### ■ 人件費関係

- |                      |                                |
|----------------------|--------------------------------|
| 1. 施設管理責任者(子ども対応・食事) | 8,000円 / 日                     |
| 2. 学生スタッフ(学習支援担当)    | 6,000円 / 日 (時給1,000 × 3h × 2人) |
| 3. 経理、労務管理           | 6,000円 / 日 (月4日ほど勤務)           |

### ■ 運営管理経費

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 保険料    | 2,000円 / 月 |
| 2. その他・雑費 | 8,000円 / 月 |

### ■ 設備関係

1. 家具、家電類    2. 調理器具、食器    3. 教材、本    4. 医療品、常備薬など    5. 日用品  
 ※ご家庭にあるものを寄付していただく、もしくは助成金申請

# VI-1. 第1期事業活動収支計算書

■ 4日／月間 11:00～20:00 運営の場合(週1日)

科目	数量	金額	月合計	年合計
<b>【収入の部】</b>				
個人サポート会費 (毎月@500)	100口	50,000		
企業サポート会費 (毎月@1,000)	50口	50,000		
寄付金		10,000		
助成金など		130,000	240,000	2,400,000
<b>【支出の部】</b>				
施設賃料		60,000		
水道光熱費		12,000		
人件費(管理責任者、学生アルバイト)		56,000		
食材費(@200)	計40人分	8,000		
その他(教材費、雑費、保険料など)		9,000		
印刷製本代、宣伝広報費用		5,000		
運営管理費(通信費、切手、振込手数料、 決済システム料金、会計事務費など)		50,000		
			200,000	2,400,000

## VI-2. 第1期事業活動収支計算書

### ■ 12日／月間 11:00～20:00 運営の場合(週3日)

科目	数量	金額	月合計	年合計
<b>【収入の部】</b>				
個人サポート会費 (毎月@500)	100口	50,000		
企業サポート会費 (毎月@1,000)	50口	50,000		
寄付金		10,000		
助成金など		245,000	355,000	4,260,000
<b>【支出の部】</b>				
施設賃料		60,000		
水道光熱費		18,000		
人件費(管理責任者、学生アルバイト)		168,000		
食材費(@200)	120人分	24,000		
その他(教材費、雑費、保険料など)		20,000		
印刷製本代、宣伝広報費用		5,000		
運営管理費(通信費、切手、振込手数料、 決済システム料金、会計事務費など)		60,000		
			355,000	4,260,000

### ■ 事業責任者

- 特定非営利活動法人GIFT 副理事長(事務局長) 眞鍋大輔

### ■ 事業運営機関

- こうち子どもの居場所運営委員会  
実行委員長のもと、6名の役員で運営方針策定

### ■ 運営体制

- 準備期: 実行委員会メンバーで運営
- 導入期: 施設一か所につき、施設責任者1名と有給スタッフ3名、ボランティアで運営
- 拡大期: 施設箇所、業務量に応じて人員体制を強化する

## VIII. 本事業に伴うリスクと対応

想定されるリスク		対応策
1	こどもの居場所を利用時の傷病	施設利用時の安全管理マニュアルを作成し徹底する。スタッフの中に有資格者を配置し、医療関係先とも密に連携を図る。医療箱、AEDを配備する。
2	子ども滞在時に起こる地震などの災害発生	災害発生時マニュアルを防災士指導のもと作成する。避難訓練を年に数回行い子どもや保護者へも対応を明示しておく。施設に消火器、防災頭巾を設置する。
3	近隣地域とのトラブル	地域の民生委員さんや町内会と連携し、地域でのイベントに参加したり、共同でイベントを開催し子どもの居場所運営への賛同と協力を得る。
4	運営資金の欠乏による運営停止	日頃から支援者を募集し安定した経営を心掛けつつ、いざという時のための留保金を蓄えておく。行政の各機関との連携を取り、経営強化に努める。
5	子どもの個性に対応するスタッフの能力	個々の子どもに対応するための情報を共有できるシステムをつくり、それに基づいたミーティングを行う。専門家を招いて講習会を二か月に一度開催する。
6	保護者とのトラブル	施設を利用してくれる子どもたちの保護者との面談の機会を設け、理念や活動方針を時間をかけて伝え、一緒に活動を支えてくれる協力者となっていただく。

- 子どもの居場所 開設場所
  - ・地域の子どもたちが集まれる場所の条件と交渉
- 支援が必要な子どもへのアプローチ経路と方法
  - ・専門家、地域の方との連携
- 食材の確保
  - ・地元の農家さん、問屋さん、スーパーさんとの連携
- 支援者、支援企業へのアプローチ
  - ・情報配信、支援依頼方法と支援金の集金方法など
- 自立した運営に向けての収入源の確保
  - ・子どもの居場所独自のビジネスプランの企画、運営
- スタッフ育成プログラムの確立
  - ・取り入れる教育方針や講師の選定
  - ・居場所づくりの後継者育成について
- 支援者へのリターン内容
  - ・支援をいただいた方への対応、リターン

## X. 関係機関連携先 (現在、連携の取れている関係機関・個人)

- 高知市社会福祉協議会 地域協働課
  - ・地域や各関係機関とのパイプ
  - ・助成金などの申請サポート、プレスリリース
  - ・子どもの居場所のお手伝い、体験学習など
- 高知県社会福祉協議会
  - ・会計事務などのサポート
  - ・子どもの居場所への食材提供
  - ・助成金
- 高知市教育委員会
- 高知県教育委員会
- 高知市 こども未来部こども育成課  
人権・こども支援課
- 高知県 地域福祉部児童家庭課
  - ・H29年度 子どもの居場所に関する助成金
  - ・子どもの居場所ネットワークづくり
- 神田地域の民生委員さん
- 高知大
  - 地域協働学部 学生さん
  - 教育学部 学生さん
  - からふるカンパニー(子どもへの教材づくりサークル)
- 高知県立大 子ども未来塾(子ども支援サークル)
- 高知県生活協同組合連合会